

山に親しみ山に想う(16)

「我が家のバードウォッチング」

＝岡本＝

- (1) バードウォッチングは自分にとって趣味と言える程のものではない。しかし、低山歩きをしていると、自ずと野鳥との縁ができるもので、里の集落、里山あたりを通る際に、ウグイス(鶯)、カッコウ(郭公)の鳴き声、キツツキ(啄木鳥)が幹を突つく乾いた音、ヒヨドリ(鶇)の群れの濁声などを聴いたり、山鳥が飛び立つ羽音にびっくりさせられるなどの経験をしたことがある。それは趣味の能動的なバードウォッチングではなく、受身の野鳥との遭遇に過ぎない。

その「受身の野鳥遭遇者」が唯一大興奮した遭遇があった。

2009年10月初旬、数馬の切通しをみて、多摩川沿いに下り、白丸ダムから鳩ノ巣駅への途次、鳩ノ巣小橋(吊り橋)のたもとの細流でのことである。当時名前さえ知らなかったカワガラス(河鳥)が水中に飛び込み潜水して小魚をついばむ情景に遭遇した。細流の岩に止まったので「鳥だ」と視線を遣ると、瞬時に水中に飛び込み、まさにスイスイと潜水して小魚をついばんだ。3m~4mの至近でついでついで瞬間が、まるで遅いコマ送りをみているように、ゆっくり且つ鮮明にみえた。写真に収めることも忘れてカワガラスを凝視していたのだ。

- (2) バードウォッチングには野外に出て探鳥する場合の他に、自宅の庭などにバードテーブル、水場、巣箱を設けて窓辺から身近な野鳥を観察するものもある。

家人が7,8年前マンションの二階ベランダの壁に懸けた巣箱にシジュウカラ(四十雀)が営巣し、3羽乃至5羽の雛が年に2,3回巣立ちしてきた。(注1)

マンションはかつての国鉄職員宿舎の跡地に建てられたもので、敷地内にヒマラヤスギと桜の老木が残っており(区の保護樹林「緑の財産」に指定)、道を挟んで区立公園がある。

巣箱は、東急ハンズで購入した巣箱キットで箱の穴の大きさはシジュウカラのサイズである。

(注2)

雀の成長には小さすぎるので諦めるが、雀の幼鳥が時々偵察に来てシジュウカラの間で紛糾することがあった。

シジュウカラは、春と夏、時によっては秋口と年に2,3回巣箱で産卵し、巣立ちさせる。雛が孵ると親鳥は代わり交代で忙しく餌を運んでくる。

雨が降ろうが、まるでピストン運転のようにひっきりなしに巣箱に出入りする(注3)。

餌をくわえて巣箱に入る際、直接飛び込むことは決してなく、一旦近くの枝、物干し竿、ベランダの柵などに止まって辺りを警戒し安全を確認した上で瞬時に巣箱に飛び込む。大柄の鳥から雛を守り、大量の餌を与えるという心身の苦労は、本能とはいえ頭がさがる思いがする。

親鳥は一日で全ての雛の巣立ちを終えようとするが、全ての雛が同じように育ち同じ日に巣立ちできる体力があるとは限らない。親鳥として巣立ちの日を決めるのは、全ての雛が飛翔できる体力を養っていることや、その日の天気などを考えねばならず、多分難事の中の難事であろう。

巣立ちの日、親鳥は餌運びの時の動きとは違って、まず巣箱周辺のベランダにある器物の配置を確認するような動きをした後、近くの木の枝に止まってピーチ、ピーチと囁いてこの木に飛んで来いと誘う。すると、一羽が穴から顔を出して数秒キョロキョロしてから飛び立つが、

親鳥の待つ木に必ずしも飛び付くのではなく、別の木に飛んでしまうこともある。一羽が飛び立つと直ぐに次の雛が同じように飛び立つ。

その間、親鳥はピーチピーチと囀り続ける。全ての雛が上手く巣立ちできるわけではなく、飛翔できる体力がない故、あるいは偶々失敗したために、枝に飛び移れずに ベランダの床に落下してしまう雛がいる。床からの飛翔は難しい。雛の頭上には、物干しや鉢植えやベランダの壁が邪魔している。二羽の親鳥は、枝に移った雛に寄り添ったり、落ちた雛の世話に当たる。親鳥と落下した雛との間では、鳴き声で「隠れろ」とか「餌をくれ」とかの意思疎通をしているようである。ベランダの窓を開けると、近くで見守っている親鳥は「隠れろ」という警戒音を発する。すると、雛は鳴くのをやめて植木鉢の陰に身を潜める。親鳥の苦勞の甲斐があって、雛に飛翔の体力がつくと、漸く飛び立ち、生死をかけたサバイバル劇は大体2日で終わる。しかし、これで大団円と言うわけではない。巣立った後の巣箱を観ると、孵化できなかった卵が置き忘れられたように残っていたり、孵ったばかりの雛が死んでいたりする。種の永続には、仲間の犠牲を伴わざるを得ず、親鳥にとってもどうしようもない摂理のようだ。

巣箱は熱湯で洗浄消毒した後、また同じところに懸けて、次のシジュウカラの営巣を待つことになる。



ベランダには、シジュウカラ以外にメジロ(目白)、ジョウビタキ(尉鷄)、ヒヨドリ(鶇)、勿論雀も来る。メダカの水槽鉢の水を飲みにきたり、鉢植えの植木に懸けたミカンの切り身をついばみに来る。体の大きなヒヨドリが威張っているのだが、異界の人間が仲裁に入るわけにはいかず、窓越しに野鳥の生々しい生態を楽しませてもらっている(注4)。

(注1) シジュウカラの抱卵期間は12~14日、雛は孵化してから16~19日で巣立つ(ウイキペディアより)。

(注2) シジュウカラ用巣箱の穴の径は約2.8cmであり、3cm以上になると雀が入るようになる。

(注3) 2017年5月に親鳥二羽が餌を巣箱に運んだ回数を調べた。

5月14日16:30~17:00 9回、15日10:19~11:00 41回。

(注4) 本文(2)の主要部分はシジュウカラを見守っていた家人からの聞き書きである。